

8月13日の北日本新聞の記事を

読んでの感想

有澤 詩恵里

終戦間近になると、よく戦争に関する記事を見ますが、見るとびに、平和で今生きていることにに対して感謝をし、過去に起った戦争の事実を心立てばならないと感じます。私は、高山大空襲にまつわる記事に目が止まりました。中学校の授業の時に、高山大空襲について詳しく調べる機会があり、心に残り

いたからです。

この記事にもあるように、今年は、終戦から六十九年で、戦争の記憶は遠のいているのかかもしれません。平和への願いを守り伝えるために、空襲の証人として、焼夷弾の大げされた灯籠、焼夷弾の直撃の跡が残つゝいる釣り鐘、門徒宅へ疎開していく戦火を逃れた阿弥陀如来像を今でも守り続けている住職さんたちがいるということを知りました。戦争当時を知る人は少なくなく、時代とともに風化は

避けられないけれど、このようは戦争の痕跡を目にし、歴史を知ることが必要だと記されています。本当にこの住職さん達のようには平和への願いを受け継いでいく人達の存在は重要だと思えます。私の家族の中では、祖父母の両親が戦争体験者ですが、数年前に他界してしまって、私はどちらかの当時のいろいろな話を教えてもらえば良いか、たむかうと思いました。

この記事を読んでいて、中学生の時に、知

り合いの住職さんが聞いた高山大空襲の話を思い出しました。その話を聞くまでは、高山の空襲がこんなに大きかったことは知りませんでした。東京大空襲や長崎・広島の原爆はんでした。私はよく聞いたことがありましたが、私が今まで普通に生活している高山にも、そんな恐ろしいことが起きていたのです。私は、その時、聞いたら調べたりしてほんとにトトをもう一度読んで見ました。私達が花火大会を見に行く神通川は、焼夷弾の刺さったままたる遺体

や、水ぶくれで蒸し焼きの遺体など埋めつけされていて、あまりにも残酷すぎる光景がいたるところに広がっていました。焼夷弾は雨のように降り注ぎ、その中を逃げまどう人々の大群は、まるで生き地獄絵図そのものだったのです。戦争のことを見れば知るほど、二度とそのようになって起らしてはならないし、犠牲になってしまった多くの命を無意味なものにしてはいけないと思いまして。

それでも世界から戦争がなくなることはまだ実現されないません。私達の暮らす日本は外国に比べると安全なのが、つい日常生活の中では、今、かけがないうちに戦争のことは忘れていってしまいます。この記事の主旨となるのようには、戦争の記憶を伝え、戦跡を守り、次の世代に生きる人達に平和の重要さを願い続けている人がいるということを決して忘れてはいけないと覺えました。この先、私達が成長すればするほど、戦争を知る人はいなくなる

なつこいく中、私達自身も、自分が戦争につ
いて聞いたことや学んだことを、伝え続けて
いかなくてはならぬと思っていました。また、
戦争や平和について考えたり、語り合ったり
する機会を今よりも持てる人間にありますとい
思いました。

猛火で割れた灯籠、焼夷弾の跡が残る鐘、疎開して難を逃れた仏像…。富山市
中心部の神社仏閣には、69年前に市内を焼き尽くした富山大空襲にまつわる「戦
跡」が今も残る。富山大和や富山大橋といった戦火をくぐり抜けた街のシンボル
が次々と姿を消していく中、神職や住職らは戦争の記憶を伝える「証人」を守り、
次代に伝えることの重みをかみしめている。

(社会部次長・稻垣重則)

「豈岡らんや米軍の大空襲

により社殿並びに境内の樹木
に至るまで悉く焼失す。(中
略)石鳥居二基、石の狛犬一
対のみが残り」。富山市中
野新町の電車通り沿いにある
白山神社。社史には1945
年8月2日未明に2700人
以上の命を奪った富山大空襲
の惨状が記されている。「当
時の被害がどれだけ大きかつ
たか。今の境内を見ても、う
かがい知ることができます」。
同神社の平尾晃宮司(53)が指
さした。

参道の鳥居や灯籠の土台な
どは石が割れ落ち、境内を取
り廻む玉垣も至る所で崩れて
いる。いずれも焼夷弾の直撃
や炎によるものだ。空襲の際
には、神社に逃げてきて息絶
くならたという。「記憶の風
化は避けられない面もある。
ただ、痛ましい過去を乗り越
るために、歴史を知ること
は必要だ」

白山神社から東へ約200
m。富山藩前田家ゆかりの大
法寺(梅沢町)に、焼夷弾の
直撃を受けた釣り鐘がある。
幅6m、長さ8m、深さ数m
の傷と、その上部に落下して
きた焼夷弾がこすれた跡が残
る。草野寛行住職(75)は「鐘

境内に空襲の証人

猛火跡残る灯籠・焼夷弾直撃の鐘・疎開した仏像



焼夷弾の炎で割れた灯籠=白山神社

戦後69年
とやま・夏

を見るたび「戦争を起こして
はいけない」という悲痛な叫
びが聞こえる気がする」と言
う。

戦時中の金属類回収令で多
くの寺の鐘が供出された。こ
の鐘も一度は持ち出された
ものの、6代富山藩主が歴代
藩主を弔うため作つたとい
う歴史的な価値が考慮され、



焼夷弾が直撃した跡が残る釣り鐘=大法寺



門徒宅に疎開

平和願い守り伝

くの寺の鐘が供出された。こ
の鐘も一度は持ち出された
ものの、6代富山藩主が歴代
藩主を弔うため作つたとい
う歴史的な価値が考慮され、

も参りに訪れたが、今ではも
う見られないという。「平和
の願いを受け継いでいくこと
も、寺の務め」。草野住職は
そんな思いを胸に、今年も鐘

本尊や神体を疎開さ
につなげ、戦火にう
れた人々の心のよ
なった寺社も多い。
松寺永福寺(同)

た仏像…。富山市

裏にまつわる「戦

けた街のシンボル
る“証人”を守り、
次長・稻垣重則)

後69年
ま・夏



焼夷弾が直撃した跡が残る釣り鐘＝大法寺



門徒宅に疎開し戦火を逃れた阿弥陀如来像＝松寺永福寺

平和願い守り伝える

の寺の鐘が供出された。こ
鐘も一度は持ち出された
の、6代富山藩主が歴代
主を弔うため作つたとい
歴史的な価値が考慮され、
そんな思いを胸に、今年も鐘

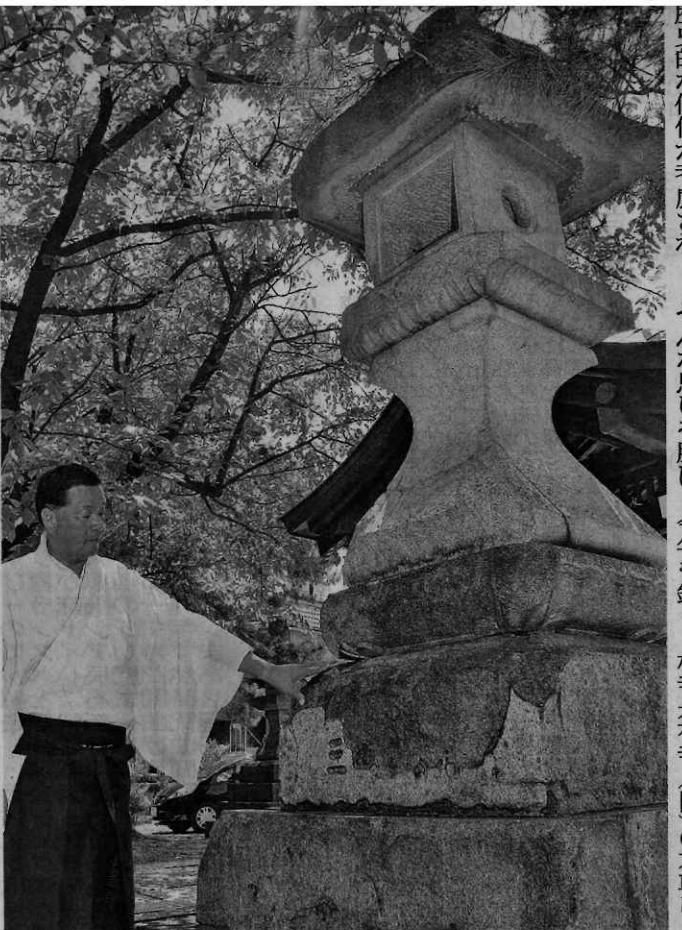
も参りに訪れたが、今ではも
う見られないという。「平和
の願いを受け継いでいくこと
も、寺の務め」。草野住職は
なつた寺社も多い。

松等永福寺（同）の本尊は、

本尊や神体を疎開させて再興
につなげ、戦火にうちひしが
れた人々の心のよりどころと
なった寺社も多い。
「どれだけ多くの人がこの
仏の前で手を合わせてきたこ
とか」。同寺の長真寿住職（52）
が本堂で語つた。戦火はそう
した人の連綿と続く嘗みの記
憶まで、「瞬にして消し去る。
「この本尊を守り、歴史を伝
えていくことが、先人の恩に
報うことになる」。長住職
は、慈愛の表情を浮かべる像
を見上げた。

◇
1945年8月の終戦から

ことしで69年。戦争の記憶は
遠くばかりだ。一方、戦争
に端を発した歴史認識問題な
どで中韓との関係は冷え込
み、7月には集団的自衛権行
使容認の閣議決定も行われ
た。日本が岐路に立つ今、あ
の戦争をあらためて見つめ直
す。|| 隨時掲載します



焼夷弾の炎で割れた灯籠＝白山神社

見るたび「戦争を起こして
いけない」という悲痛な叫
び聞こえる気がする」と言
毎年8月2日の朝、同寺で
は追悼の鐘を鳴らす。かつて
は空襲で亡くなつた人の遺族
空襲によって市内の神社仏
閣の大半が焼失した。一方、
建物に安置され、その後
現在の本堂が再建された。

鎌倉時代の作と伝えられる阿
弥陀如来像。空襲のわずか2
日前、馬車で同市善名（大山）
の門徒宅へ移されて無事だつ
た。像は全焼した本堂の代わ
りに移築され